

平成24年度 自己評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめす。	今年度の重点目標	1. 確かな学力の育成 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現
-------------------	---	----------	---

年度当初			評価結果 (3)月				
評価項目	評価の具体事項	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
確かな 1 学力の 育成	① 授業改善と 学力の定着	○授業評価アンケートによる生徒の学習状況や理解度等の把握をもとに、授業改善を図っている。 ○基礎力診断テストは、生徒の意欲喚起につながり、2回目 の診断テストでは、全体的な学力向上が見られた。今後は、 生徒個々の到達度をさらに高めていく必要がある。 ○学習環境の改善が徹底できつつある。 ○各教科の公開授業での研究が、授業の改善に活かされて いる。	○わかりやすい授業を実践し、学力を定着させる。 ○全体的な成績向上を図り、生徒個々の到達度を高める。 ○より一層、学習環境を改善し、生徒の基本的な学習習慣を 確立させる。 ○教科指導の研究を充実させ、より一層、授業を改善する。 ○各教科の公開授業での研究が、授業の改善に活かされて いる。	○授業評価アンケート等での分析に基づき、教材研究をより充実させ、生徒 の理解度や意欲を高めるため、わかりやすい授業の工夫を引き続き 行う。 ○基礎力診断テストより、基礎力不足の層が増加した。この層の生徒に対しての意欲喚起が課題であ る。また、全国工業高校校長会主催標準テストの成績が一部の科目で目標に達しなかった。 ○「5S」、「あさひ」の取り組みは、授業前に教材準備を徹底させることとクラス間の差等に課題があ るものの、全体的には定着しつつあり、特に授業開始・終了の挨拶や学習環境は改善されている。 ○公開授業については、一部の教科で変更があったものの、多くの教科で実施できた。	○授業評価アンケートや基礎力診断テスト等の分析に基づき、小テストや課題等を課し、ICT機 器の活用など、生徒の理解度と定着度を高める工夫を行う。 ○基礎力不足の層の生徒に対しては、特別講師や個人指導をより一層徹底するとともに、つま ずポイントの手立てで理解するなどの工夫を行う。また、標準テストの意義を明確に示し、生徒に 個々の目標を設定させる。 ○教室の美化を徹底するため、各教科担任による授業での働きかけや直や管理美化係を活 用した取り組みを行い、「5S」、「あさひ」の取り組みをより一層徹底する。また、各クラスの状 況把握を徹底する。 ○公開授業の実施を徹底するとともに、各種研究会への参加や公開授業の参観を通して、授 業方向性に向けての研鑽をより一層積む。また、研究授業や教科会により充実させる。	B	
	② 主体的な学 習態度と実 践力の育成	○個別面談指導、補習、各種模試、進路行事等を実施する 中で、生徒に学習及び進路の目標を定めさせることができ ており、主体的な学習の習慣及び態度を育成できつつあ る。 ○自宅学習調査(考査前)の結果より、学習時間は全体的 に増加傾向にあるが、一部には極端に少ない生徒がいる。 ○朝読書の定着により、図書館の貸出冊数が大幅に増加し ている。	○学習及び進路の目標を早期に確立させ、より一層、主体的 な学習の習慣及び態度を育成する。 ○平時の自宅学習を習慣化させる。 ○読書への興味・関心を喚起し、読書が習慣化するよう、引き 続き「朝読書」を充実させる。	○各種進路行事等の取り組みを引き続き進めるとともに、新たに1年生で 進路講座を実施する。また、生徒・保護者との面談をより綿密に実施す る。 ○個々の生徒に定期考査や資格・検定試験の目標を設定させる。また、 小テストや課題を日常的に課すなどして自宅学習を促す。 ○図書館での発行や身近なテーマの資料展示等、本の紹介につ いて、より一層の充実を図る。	○従来の進路行事等の取り組み以外に、新たに、PTA懇談時の「ハローワーク職員・生徒・保護者の3 者個人相談会や1年生キャリア塾等を実施したことで、今まで以上に進路意識が高まっている。 ○生徒に目標を設定させることが充分にできている。自宅学習調査結果より、工業学科は学習時間 が増加傾向であったが、理系工業科は減少した。今後では、クラス単位で個人塾が多く、二極化 の傾向が見られる。対策の一環として、学校で自宅学習ができるよう一部の科で学習スペースを開放し た。 ○朝読書が定着した。図書館の貸出冊数は耐震工事の関係で昨年度より減少したが、高い貸し出し冊 数を維持した。	C	
豊かな 2 人間性 の育成	① 互いを尊重 する態度と 社会性の涵 養	○日々の教科指導やLHRでの人権教育、性教育の講演 会、アンケート調査等は、他者との関係を見つめ直すよい機 会となっており、互いを尊重する態度の育成が図られている。 ○人権教育校外研修「1人1研修」の取り組みが十分ではな い。	○生命の大切さや人権を尊重することの大切さを考えさせる。 また、支援を要する生徒の把握等、個々の生徒の理解や望ま しい集団づくりを充実させる。 ○教職員自らが研修等とおして自己を振り返り、学ぶ姿勢を もたせ続ける。	○保育実習やシニア体験等を充実させる。 ○ハイバーク調査の実施、活用プランの作成及び活用の徹底を図る。 ○ヒヤリングシート等への理解を深め、積極的に参加を促す。 ○関係機関との連携を強化し、生徒の部活動の状況を把握し、助言す る。 ○教職員自らが研修等とおして自己を振り返り、学ぶ姿勢を もたせ続ける。 ○人権教育校外研修への参加呼びかけの工夫を図り、積極的に参加 する意欲を高める。	○人権教育LHR、性教育LHR、保育実習体験、シニア体験等を通して生命の大切さや人権を尊重す ることの大切さを考えさせることができた。 ○ヒヤリングシート等への理解を深め、積極的に参加を促す。 ○ヒヤリングシート等への理解を深め、積極的に参加を促す。 ○関係機関との連携を強化し、生徒の部活動の状況を把握し、助言す る。 ○教職員自らが研修等とおして自己を振り返り、学ぶ姿勢を もたせ続ける。 ○人権教育校外研修への参加呼びかけの工夫を図り、積極的に参加 する意欲を高める。	B	
	② 健全な心身 と社会貢献 精神の育成	○「5S」、「あさひ」の取り組みが徐々に定着してきて いる。また、欠席、遅刻の生徒数が減少傾向にある。しか し、一部に基本的な生活習慣が身につけていない生徒が いる。 ○テクノボランティアへの参加生徒が増加している。 ○部活動に熱心に取り組む生徒が多い。 ○交通安全には改善されたが、自転車運転について、傘さ し運転がまだ散見される。	○基本的生活習慣を確立させるとともに、協調性、責任感及 び他者の話を聞くための適切な態度を育成する。 ○生徒の地域社会とのかかわりを深め社会性を積極的に設け、 他者を思いやり、尊重する心や態度を育成する。 ○部活動をはじめ生徒会活動に積極的に取り組ませる。 ○交通安全のマナーを引き続き守らせ、安全に通学させる。	○「5S」、「あさひ」の取り組みの定着、時間や提出物の厳守の徹底等、クラスや学年によって差がある。 ○テクノボランティア等への参加生徒が増加している。 ○関係機関との連携を強化し、生徒の部活動の状況を把握し、助言す る。 ○教職員自らが研修等とおして自己を振り返り、学ぶ姿勢を もたせ続ける。 ○人権教育校外研修への参加呼びかけの工夫を図り、積極的に参加 する意欲を高める。	○「5S」、「あさひ」の定着、時間や提出物の厳守の徹底等、クラスや学年によって差がある。 ○テクノボランティア等への参加生徒が増加している。 ○関係機関との連携を強化し、生徒の部活動の状況を把握し、助言す る。 ○教職員自らが研修等とおして自己を振り返り、学ぶ姿勢を もたせ続ける。 ○人権教育校外研修への参加呼びかけの工夫を図り、積極的に参加 する意欲を高める。	B	
キャリア 教育の 充実と 生徒の 進路実現	① 専門的な知 識・技術の 習得	○「国家資格・検定取得ガイドブック」により、資格取得の 奨励が指導の徹底が図られている。 ○各教科における資格取得に向けた補習等の実施により、 多くの資格で合格者数が増加している。 ○「高校生へのづくりプロジェクト」の取り組みが低調で、中 国・全国大会への出場が減少している。 ○インターンシップ、企業見学、島工版デュアルシステム等の 実施により、実践的な技術・技能の育成が図られている。	○幅広い工業分野の基礎知識や技術・技能の一端を習得せ し、幅広い工業分野に対応できる人材を育成する。 ○生徒一人一人資格(検定)の取得を実現させ、資格取得者 数を増加させる。 ○「5S」は様々な活動の基礎・基盤を形づくる重要不可欠 な改善活動であり、より一層、定着させる。 ○企業との連携事業を充実させ、生徒の知識や技術・技能を 育成する。 ○「高校生へのづくりプロジェクト」において、上位大会へ出場 させる。	○工業の基礎・基本を総合的に習得させるため、科目「工業技術基礎」 (共通実習)の指導の徹底を図る。 ○最近の資格・検定の改正や「国家資格・検定取得ガイドブック」の有 効活用を徹底させる。 ○実習、課題研究、職業工学科1、理数工学科2の時間を中心に、「5S」 の改善活動を行い、より一層、定着させる。 ○企業との連携事業を充実させ、生徒の知識や技術・技能を 育成する。 ○「高校生へのづくりプロジェクト」において、上位大会へ出場 させる。	○「工業技術基礎」(共通実習)の授業では、各専門科の特色を活かして、基礎的・基本的な内容を 中心に指導する。しかし、レポートの内容、提出期限、時間厳守、集合場所の確認等について、指導 の徹底は図られている。 ○「国家資格・検定取得ガイドブック」に則り、適切な時期に案内するとともに、早朝・放課後補習や社 会人講師による実習指導等を実施した。昨年度比の取得者数は科によって様々であった。3年生の一 人一人資格を実現させることができなかったが、上級資格を取得した生徒は多かった。 ○「5S」について、必要性を理解させることができたが、実践力の育成に課題がある。また、校内環境 の整備などについて迅速に対応でき、改善しつつある。 ○「インターンシップ」では、県産部企業61社に協力いただき、工業学科2年生151名が参加。協力 企業数不足により、数社の生徒を受け入れていたという現状がある。「島工版デュ アルシステム」では、参加生徒が機械科3名、情報・情報科6名、電気科6名、協力企業数が5社と、昨 年度比3名増・1社増であった。「企業見学」では、企業1社、専門学校2校、4期大学2校、建設現 場4件、施設見学2件と、昨年度とはほぼ同様の実施状況であった。 ○ものづくりに関する早期技術指導は人材確保が主で状況により、技術・技能指導ができていなかった。 測量部門で中国大会に出場。	○「工業技術基礎」(共通実習)では、全体説明会のみでなく、年度の早い時期に各科による 事前指導を実施する。 ○「国家資格・検定取得ガイドブック」の活用を継続するとともに、資格未取得者の指導等を充 実させる。 ○「5S」について、清掃等、実習終了5分間の実施を徹底する。また、実践力の向上のため に、「5S」の活用について、先達視察を行い、その成果を還元する。 ○インターンシップは、一層企業の負担を軽減するために、新規企業開拓を実施する。 ○授業等、ものづくりに関する早い時期からPRし、人材確保に努める。	
	② 職業意識の 育成と進路 指導の徹底	○企業見学やインターンシップにおいて、企業と連携して指 導することにより、職業観・勤労観・進路意識の高揚を図るこ とができている。 ○生徒の多様な進路に対応するために、面接指導を全職員 で実施してきているが、進路意識の高揚はいま一つ不足して いる。 ○進路LHR・進路ガイダンスは、生徒の進路選択に役立っ ている。 ○校外施設での島工「ものづくり講演会」は、技術者とし ての在り方を多く学ぶことができる。	○生徒の進路意識・職業観・勤労観をより一層高揚させると ともに、生徒の成長を支援する。 ○進路決定の実現に向けて、進路意識の高揚を促し、指導を 充実させる。 ○社会人として求められる能力・態度を育成する。	○企業見学、インターンシップ、島工版デュアルシステム等の企業と連携し た事業及び資格取得のための学習の充実を図るとともに、生徒が進路 情報を迅速に入手できるように指導を徹底する。 ○面接・課題研究のより一層の充実を図り、特に3年生に対しては、面接 練習を強化する。 ○面接・課題研究等の積極的な利用を図る。 ○挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を丁寧に行う。 ○ものづくり講演会・挨拶検、先輩を囲む会等を実施する。	○企業見学、インターンシップ等、企業と連携した事業は概ね予定通り実施できた。資格補習、進路指 導も予定通り実施できた。また、求人票等の取寄せも予定通り実施できた。 ○校内での面接指導を実施することで、3年生の多くの生徒が面接に臨む意識を向上した。特に、就 業希望者については、1次内定率が昨年度に比べて約10%上がった。 ○就職ガイダンスなどの外部行事に参加した生徒が20名から73名と大幅に増えた。 ○挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を丁寧に行う。 ○ものづくり講演会・挨拶検、先輩を囲む会等を実施する。	B	
	③ 地域や産 業界との連 携強化	○インターンシップ事前指導(全体・科別の2回実施)によ り、目的や取り組みの明確化や育成が図られている。 ○インターンシップ中の「あさひ」について、多くの企業か ら親近良好との感想を得ている。また、意見交換、情 報交換を密に行うことで、企業との連携が図られている。 ○「ものづくり講演会」、「社会人講師による授業」、「 先輩を囲む会」等では、生徒に技術者としての在り方や プロの技を伝授していただいている。また、これらの取り組み や島工産業教育懇話会では、教職員の指導方向性にもつ ながっている。 ○「津ノ井地域懇話会」は、地域の方々に本校の教育方 針を理解していただく場となっている。	○企業が求める人材や地域の担い手となる人材を育成する。 ○地域や小学校、中学校等へ積極的に情報発信し、島工の 教育について、理解を深めてもらう。 ○地域と連携した教育活動を行う。 ○保護者との連携を密にし、生徒の指導・支援を充実させる。 ○「津ノ井地域懇話会」は、地域の方々に本校の教育方 針を理解していただく場となっている。	○インターンシップや島工版デュアルシステム、社会人講師等の事業を 実施し、産業界との連携をより一層図る。 ○HPの活用や出前授業、科学広場等の実施により、島工を広くPRし ていく。 ○「高校生マナーアップさわやか運動」や「テクノボランティア」、「 津ノ井地域文化祭」、「鳥取県技能祭」等へ参加し、地域との連携 を強化する。 ○特別PTAや島工技研、津ノ井地域懇話会などを開催し、保護者や地 域との連携を強化する。	○インターンシップや島工版デュアルシステム、社会人講師等の事業を計画通り実施し、産業界との連 携が図れた。 ○HPを頻りに更新するとともに、学校の情報発信が活発化した。中学校体験入学では、多くの参加者 があった。 ○「高校生マナーアップさわやか運動」や「桜ヶ丘グリーンゾーン」活動での清掃活動等、地域との連 携を強化する。特に、「津ノ井地域文化祭」、「鳥取県技能祭」等へ参加し、地域との連携 を強化する。 ○特別PTAは例年より多くの保護者の参加があり、本校における教育活動への保護者の理解が得 られる機会となった。	A	

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・美観 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く

評価基準 A:十分達成【100%】 B:概ね達成【80%程度】 C:変化の兆し【60%程度】 D:まだ不十分【40%程度】 E:目標・方策の見直し【20%程度】